

McGill 大学での短期研修に参加して

生活科学部人間生活学科
発達臨床心理学講座 2年 中山莉子



約3週間の日程でカナダ・モントリオールにあるマギル大学でカナダ文化と英語を学んできました。私にとって今回の研修が初めての海外であり、また渡航準備はほとんど自分自身でしなければならず、直接相手の大学側に連絡を取

ったり、滞在先を確保したり緊張や不安も大きいものでした。しかし、この研修を通して出会った人々は私に大きな刺激と変化を与え、また自分自身で研修の手配し、無事にプログラムを終えることが出来たことは今後の自信にもなりました。

今回の McGill 大学での研修は日本人学生のために毎年行われている語学研修プログラムでした。関東の大学を中心に約 80 名の日本人がこの研修に参加していましたが、私たちの大学にとってこのプログラムへの参加は初めてで、私を含めお茶大生は2人だけでした。実は渡航前は日本人だけのプログラムであると知らなかったため、初日は驚きと不安がありましたが、日本人が多かったからこそ普段の日本人同士の会話でも積極的に英語で話すことを心がけることができ、英語を使う機会を多く持つことが出来ました。授業は平日午前8時半から12時までの座学中心の授業と、午後は4時半までの課外活動で構成されていました。また週に1回の計3回、発音に特化した授業がありました。また、授業の内容はそれぞれのクラスによって異なり、議論やプレゼンが中心だったクラスや、私のクラスのようにより実践的な **Speaking** のスキル向上に重点を当て、リスニングと会話中心のクラスもありました。午後は授業で扱った内容に関するモントリオールの名所や施設にクラスモニターと呼ばれる現地の学生スタッフ一人と日本人学生5、6人という小グループで **outing** に行きました。授業とは違い、午後の活動はモニターの学生と英語でさまざまな内容の会話を楽しむことができ、とても充実していました。そして夕食後には、寮の中でのグループの活動があり、英語の人狼をしたり、モントリオールの街に遊びに行ったりしました。また週末には首都オタワへの小旅行やオプションとしてトロント旅行やホームステイがありました。また、授業の最終日にはモントリオールの街全体を使って英語での



オリエンテーリングのようなものがありました。全体を通して、全身を使ってカナダを、そしてモントリオールに親しむ・とけ込むことが出来たプログラムでした。

滞在先はホームステイの2日間を除き、大学寮でした。大学寮は一人一部屋だったため、課題がある時やリラックスしたい時は部屋で過ごし、英語を話したい時は寮と一緒に滞在しているモニターたちとゲームをしたりしました。大学寮ではほとんど毎日三食が食堂で用意され、時にカナダ伝統の料理を寮の中庭でピクニックのようにして食べることもありました。また大学寮はモントリオールのダウンタウンの近くにあり、時に自由時間に買い物に行ったり、建物を見て回ったりすることもありました。

モントリオールは、フランスパリに次いで二番目にフランス語を話す人口が多く、お店に入ると、"Bonjurer, hi!" と話しかけられることがほとんどで、街の標識はどこもかしこもフランス語で書かれてました。しかし、多くの現地人はフランス語と英語のバイリンガルで、相手によって言葉を瞬時に使い分けていてとてもかっこいいと思いました。また、第二言語として中国語が多く学ばれていて、街を歩くたびに「你好。」と話しかけられました。ホームステイ先では、老夫婦のご家庭でお世話になりました。期間は2日間という短いものでしたが、日中は動物園に行ったり、川で水上バイクのようなものに乗ったり、市場に行ったりして、夜はホストファミリーと一緒に映画やドラマを見ました。モントリオールの夏は短く、冬はとても長い為に、現地人は夏に積極的に外に出て過ごし、とても楽しんでいる印象をうけました。そして、この滞在を通して、モントリオールの人はおおらかな人でオープンな人が多いなと感じました。朝ご飯と昼ご飯を一緒にするランチがモントリオールの習慣としてあったり、お店の开店時間が短かったり、仕事と余暇の過ごし方が上手いからこそだと思いました。

この研修全体を通して、英語でコミュニケーションをとるスキルだけでなく、自分をしっかりと出していくこと、自信を持って話をすることの重要性を学びました。今後、この経験を自分の将来に活かしていけるような行動をしていこうと思います。